

令和6年3月18日

京都大学総長  
湊 長 博 殿

京都大学総長選考・監察会議議長  
平 野 俊 夫

### 国立大学法人京都大学総長の業務執行状況の確認について

国立大学法人京都大学総長選考・監察会議は、国立大学法人京都大学総長の業務執行状況の確認に関する規程第2条及び第3条第2項に基づき、令和6年1月24日に国立大学法人京都大学総長の業務執行状況の確認を行いました。湊長博総長に対する総長就任後3年間の業務執行状況の総合的な確認結果は下記のとおりです。

#### 記

##### 1. 業務執行状況の確認方法

総長選考・監察会議として、次のとおり実施した。

###### 1) 各委員において以下の資料を確認した。

- ・監事監査に関する報告書（令和2年度～令和4年度）
- ・指定国立大学法人京都大学の令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果（令和3年12月1日文科科学省国立大学法人評価委員会）
- ・第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果（令和5年3月23日文科科学省国立大学法人評価委員会）
- ・「国立大学法人京都大学総長の業務執行状況の確認について（令和4年3月29日）、（令和5年3月29日）」
- ・令和2事業年度に係る業務の実績に関する報告書《指定国立大学法人》
- ・第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書
- ・国立大学法人京都大学の中期目標・中期計画一覧表（第3期、第4期）
- ・第4期中期目標・中期計画に係る自己点検・評価報告書（令和4年度）
- ・任期中の基本方針 ―世界に輝く研究大学を目指して―
- ・国際卓越研究大学に係る認定意向表明書
- ・国際卓越研究大学研究等体制強化計画第一次案及び概要
- ・アニュアルレポート2022-2023
- ・京都大学概要2023
- ・国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等に関する報告書（令和5年度）
- ・アカウンタビリティレポート

###### 2) 監事を含めた令和5年度第2回総長選考・監察会議（令和6年1月24日開催）において意見交換を行い、総長の業務執行状況の確認を行った。

## 2. 結果

湊総長は、就任当初に策定した「任期中の基本方針―世界に輝く研究大学を目指して―」の方向性に基づき、この3年間、大学の状況や社会情勢に応じて様々な施策を意欲的に実行し、また、新型コロナウイルス感染症対策やウクライナ情勢などの課題にも臨機応変に対応しており、京都大学総長として求められる役割を十分に果たしている。

特筆すべき観点として、以下の3点を意見する。

①「任期中の基本方針」や第4期中期目標・中期計画（令和4年度～令和9年度）にそって、各部局が恒常的に真に必要な教育研究基盤経費を増加させた。また、女性教員比率の増加にむけて、女性教員に関する定員上位流用制度や若手・女性教員採用のための定員貸与制度を創設するなど各部局が数値目標を達成するための支援策を講じ、女性教員比率の上昇傾向は顕著となっている。引き続き目標を達成するための取組を着実かつ積極的に進めることを期待する。

②教育研究支援体制の充実を図るため、現場の課題や意見を的確にとらえ、全学機能組織の改革を以下のとおり推進したことは評価できる。これらの組織が総長のリーダーシップのもと各組織の機能を十分に発揮して運営されることを期待する。

i) 大学院に共通する大きな課題を解決することを目指し、令和3年10月に大学院教育支援機構を設置したこと

ii) 研究大学強化促進事業終了を受け、学術研究支援室の組織・業務を見直し発展的な組織として、令和4年10月に学術研究展開センターへ改組したこと

iii) ファンドレイジング、知財・イノベーション戦略策定、スタートアップ支援等の機能を一元的に備え、研究成果の活用を一体的に推進する合目的的な組織として、産官学連携本部、オープンイノベーション機構等を統合し成長戦略本部を令和6年4月に設置すること

iv) 情報環境機構、環境安全保健機構、学生総合支援機構もそれぞれの課題に応じた改組を行ったことなど

③令和5年3月の国際卓越研究大学の公募への申請に際し、総長のリーダーシップのもと、長期的成長戦略に基づく自立的大学経営を可能にする抜本的構造改革に取り組み、新時代に適合し成長し続ける新しい大学の形を追求していくことについて学内における議論を深めた。第1回の認定候補大学となることは見送られたが、有識者会議から「変革への強い意志は高く評価」されたので、その構想の骨格は維持しつつ、指摘を受けた内容を踏まえた構想の具体化に向けた検討を開始しており、大学の未来に向けた取り組みを積極的に推し進めていることは評価できる。より強い京都大学を目指し、国際卓越研究大学の認定候補になるために、引き続き強いリーダーシップを発揮することを期待する。

今後さらに真価を発揮し施策を完遂するためには、部局との対話を重視し、大学構成員に総長の考え方や方針を発信しながら、トップダウンとボトムアップの調和をさらに図り、京都大学の一層の飛躍に向けて取り組まれることを期待する。

以 上